

事業区分	文化芸術事業		育成創造事業	
事業名	ARTS FOR EVERYONE 楽演祭			助成:文化庁
目的・内容	<p>地域の文化活動者の発表の場や芸術文化に気軽に参加できる場、そしてパークスクエアの賑わいを創造する事業として、平成14～20年度「楽演祭」事業を実施してきた。これまでの成果や課題を見据え、人財の育成・活用を継続し、平成21年度より運営体制や内容を一新し「楽演祭」事業を「ARTS FOR EVERY ONE 楽演祭」として継続していく。ARTS FOR EVERYONEのミッションとして「参加者の交流」という事業コンセプト、「連携による活力ある人々と舞台づくり」という推進コンセプトをもとに、活力ある地域社会の形成を目指す。</p> <p>文化活動者の育成や発表の場であったアトリウムLIVEもさらに幅広いジャンルに目をむけ、地域の活動者主導の下、地域が創る事業として実施していく。また未来中心の施設や地域の特性を生かした企画・運営とし、施設利用者もその運営に積極的に携わることにより、地域の人々が創りあげる事業としていく。</p> <p>演奏者、愛好者の育成を図ってきたパイプオルガン事業も、今まで関わってきた参加者や演奏者がさらにその魅力を多くの方々に伝えていく企画運営を行なうとともに、演奏者自身もさらなるレベルアップを図ることができる事業としていく。</p>			
開催日	①Café・NOUVEAU 7/31、②Café・VALENTINE 2/13、③Mechaしぶナイト倶楽部 3/6、④ホジティブオルガン講習会 9～11月(5回実施)、⑤ホジティブオルガン発表会 12/5～6、⑥みらいアートギャラリー 4～3月(9回実施)			
会場	倉吉未来中心 アトリウム、小ホール等			
入場料・参加費 (友の会)	Café・NOUVEAU 500円 (設定なし)	Café・VALENTINE 500円 (設定なし)	Mechaしぶナイト 500円 (設定なし)	オルガン講習会受講料 500円、1000円 (設定なし)
集客状況	入場者数 491名 (小ホール3公演のみ)	設定席数 850席 (310×2、230)	集客率	57.7%
事業費状況	予算額	収入 180,000円	支出 2,180,000円	収支比率 8.3%
	決算額	収入 233,100円	支出 1,828,375円	収支比率 12.7%
来場者アンケート (主なもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで聴いたことのない楽器でとても良かったです。説明が分かりやすかった。ピアノ、マリンバ、ツインバロンの共通点も少しずつあり、とても面白い企画でした。 ・ホールが冷やされすぎ。 ・回りの騒がしさが気にならないほど、オルガンの音色が心に浸みました。コラボがあつてよかった。 ・オルガン、トロンボーン、アカペラ、とても素晴らしかったです。意外な組合せ、心温まるステージでした。 ・オルガンが斜めにして、演奏が見えるとよい。 ・各バンドの映像(スクリーン)でおもしろい演出だった。いろんなジャンルの曲が聴けてよかった。 ・音が響きすぎた。椅子の配列に工夫を。 			
1次評価 (内部)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・満足度も高く、ニーズに沿ったプログラムを提供できたと思われる。 ・初の出演者を多く増やし、その結果、広く県内から参画・集客が見られた。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期の企画の立ち上げ、幅広い広報が必要。 ・パイプオルガンの魅力、特性をより生かされる内容とする。 ・更なる地元の新規顧客の開発。地元との協働推進。 ・活動者同士の新たなネットワーク、事業支援者の拡大。 			
2次評価 (財団評議員)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しいスタイルのコンサートが定着しようとしている。公演内容も充実しており、雰囲気づくりにも工夫が見られる。 ・過去の課題抽出とそのクリア、という明確な目標を設定し、課題解決への取組姿勢を評価したい。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県下全域への幅広い広報活動が必要。新規顧客の増大。 ・このライブが地域に根付いているが、まだまだ伸びしろは大きい。 ・入場有料化の定着化については、活動者の自覚は必要。 			
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・企画内容については、出演者と財団側でステージを創ることでの、職員のスキルアップを図る。 ・事前のプレ・イベント、会場付近の装飾など、組織内における新たな連携、協力をする。 また、パークスクエア内での協働取組も進める。 ・他のアマチュアバンドライブと一線を画した内容を目指し、演奏レベル、演出面の工夫を行う。 			